

**福島被災地域の復興支援を考える
「感じ、考え、関わり、再び訪れる」学生スタディツアー
8月19日（水）～8月22日（土）大熊、双葉、浪江へ**

独立行政法人都市再生機構（以下、UR都市機構）は、全国の学生が福島県浜通りの原子力災害被災地域を訪れ、復興に携わる方々と出会い、復興について学ぶ、学生向けのスタディツアー『キモチ、あつまるプロジェクト 2026』（以下「本ツアー」）を実施します。本ツアーでは5月19日から6月30日まで参加学生を募集し、15名の募集に対して全国から100名の応募がありました。

今年度は「感じ、考え、関わり、再び訪れる」をテーマに、参加学生が被災地を巡るだけでなく、地域の方との対話を通じて地域を理解し、地域のための企画を考え、企画の実現を目指し、年間を通して活動します。その第一歩として8月19日（水）から8月22日（土）まで、3泊4日で被災地をめぐるります。参加学生は、福島県大熊町、双葉町、浪江町を訪問し、東日本大震災の伝承施設やUR都市機構がまちづくりを支援している地区を訪れるほか、これらの地域で復興やまちづくりに携わる方々と交流・意見交換を行います。

本ツアー後の予定は以下のとおりです。現地への再訪や企画実施は今年度初めて実施します。

9月～11月 地域の方と共同で地域の課題解決企画の検討

12月 参加学生が現地を再訪し、企画発表会を開催

翌年2月下旬 地域の方とともに現地で企画を実施

UR都市機構は復興拠点整備等のハード整備だけではなく、交流人口・関係人口の創出・拡大や賑わい・交流づくりに向けて、関係者を巻き込みながらの実証活動等のソフト支援にも取り組んでいます。本企画は、その一環として行うもので、これからの未来を歩む世代が被災地域のことを知り、復興に関心を持ち、行動してもらうきっかけづくりとなることを目指します。

ワークショップ等の参加学生の活発な議論の様子と、原子力災害被災地域の今をぜひご取材いただけますと幸いです。

スタディツアー概要

○日程：2026年8月19日（水）～8月22日（土）（3泊4日）

○参加人数：15名（現在は募集終了）

○年齢層：19～23歳

○旅行企画・実施：株式会社朝日新聞社

○主催 UR都市機構

○後援 復興庁、大熊町、双葉町、浪江町

【お問い合わせ先】※12/29～1/3 および土日祝日を除く 10:00～16:00

■ 本ツアーに関するお問い合わせ先（事務局）

キモチ、あつまるプロジェクト 2026 事務局（朝日新聞社メディア事業本部内）
（メール）kimochi-atsumaru@asahi.com

UR 都市機構 災害対応支援部 企画課 勝谷（かつや）（電話）045-650-0871

■ 報道関係の方からのお問い合わせ先

UR 都市機構 広報室広報課 中津（なかつ）・大久保（おおくぼ）（電話）045-650-0887

UR 都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・暮らしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害対応支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



—— 社会課題を、超えていく。——



UR 都市機構



UR都市機構は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

スタディツアー行程表

本行程は現時点の予定となります。今後の検討調整、当日の天候等によって変更となる場合があります。

1日目 8月19日（水）～東日本大震災・原子力災害について学ぶ～

時間	場所	プログラム
11:30	双葉駅	集合
11:35	双葉産業交流センター	オリエンテーション
13:05	東日本大震災・原子力災害伝承館	施設見学
14:35	復興祈念公園・八幡神社	施設見学
15:30	震災遺構 請戸小学校	施設見学
16:35	大平山	施設見学
18:00	いこいの村なみえ	語り部ナイト (地域の方との交流会)

2日目 8月20日（木）～復興まちづくりについて学ぶ～

時間	場所	プログラム
9:50 ～ 11:00	中間貯蔵センター/JAEA ANALYSIS LAB	施設見学
11:00 ～ 17:15	大熊町、双葉町、浪江町のUR事業地区	事業地区見学
18:00	いこいの村なみえ	語り部ナイト (地域の方との交流会)

3日目 8月21日（金）～地域でのフィールドワーク・ワークショップ～

時間	場所	プログラム
9:20 ～ 11:50	コウド舎/FUTAHOME/GREVA おおくま/キウイの国	それぞれの場所で フィールドワーク
13:40	いこいの村なみえ	ワークショップ
17:45	産業交流センター	ふたば飲み

4日目 8月22日（土）～ワークショップ・中間発表～

時間	場所	プログラム
10:30 ～12:00	いこいの村なみえ	ワークショップ
13:00		中間発表会
14:50	道の駅なみえ	
15:15	浪江駅	解散

●支援3町における主な取り組み（8月20日に訪問予定）



©kengo kuma & associates

「浪江駅周辺地区」（浪江町）

隈研吾氏らが手掛けた「浪江駅周辺グランドデザイン基本計画等」をもとに、駅周辺の商業・住宅・交流拠点を整備し、帰還者や移住者が安心して暮らせる環境づくりを支援。



「双葉駅西側地区」（双葉町）

基盤整備工事や建築施設整備の技術的支援を受託するとともに、まちなか再生に向けた支援を実施。住民帰還のための「住む拠点」づくりに向け、復興まちづくりを推進。また、地域プレイヤーの発掘・連携や町の賑わい創出を目的に、空き地等を活用した「ちいさな一歩プロジェクト」を展開。



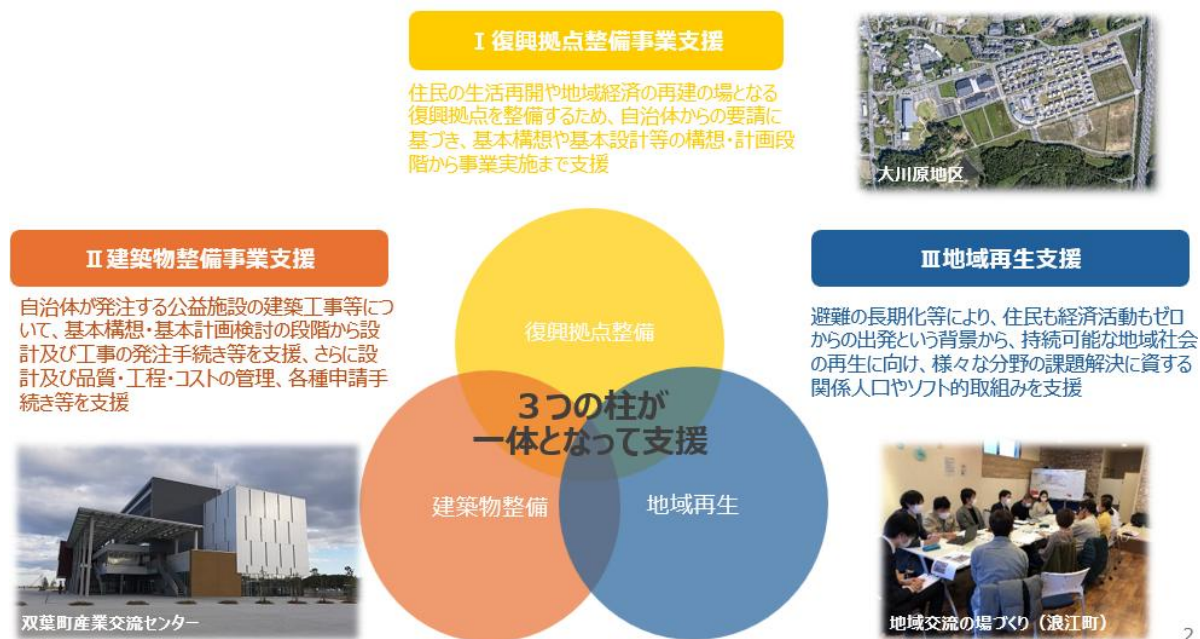
「下野上地区」（大熊町）

宅地や道路等の基盤整備、公共建築施設整備業者の公募および周辺施設を含めた指定管理予定者等の公募の支援を実施。令和7年3月には基盤整備が完了し、オフィスや飲食店等のある大野駅西交流エリアがオープン。

<参考>UR都市機構が行う原子力災害被災地域における復興まちづくり支援

大熊町、双葉町、浪江町では、福島第一原子力発電所の事故により、長きにわたり避難指示が続いていました。現在は3町すべての特定復興再生拠点区域の避難指示が解除され、住民の帰還等により少しずつまちに賑わいが戻りつつありますが、3町の居住人口は未だ震災前の1割程度に留まっています。

UR都市機構は、これらの課題に対応するため、ハード・ソフト双方からのアプローチが不可欠との認識の下、「復興拠点整備事業支援」「建築物整備事業支援」「地域再生支援」の支援を一体的に行い、復興まちづくりを推進しています。



※復興まちづくり支援の具体的内容は、下記 URL をご参照ください。

[東北震災復興支援本部（東日本大震災からの復興支援）](#) | [UR都市機構](#)

（参考）ふたば星空夜市概要

本ツアー3日目、8月21日（金）に参加予定。

○日程：2026年8月20日（木）～8月21日（金）

○概要

8月20日（木）16：30～20：30

テーマ：音楽会＆ふたば飲み

地元音楽団体「ふたばの声」と「ふたば飲み」の共催により、音楽中心のプログラムを実施。

8月21日（金）16：30～20：30

テーマ：屋外映画上映会＆ふたば飲み

地元映画団体「ふたばシネマ」と「ふたば飲み」の共催により、屋外映画上映会を実施。

○場所：双葉町産業交流センター（F-BICC）